ジェンダーへの取り組みの良い事例（参考）

事　業　情　報

- 国名：パキスタン
- 事業名：パキスタン等大地震に対する国際緊急援助隊派遣並びに緊急援助物資の供与

1.　事　業　概　要

（1）　背景・経緯

2005年10月8日にイスラマバード市北西約95km深さ約10kmを震源とするマグニチュード7.6の地震が発生した。これにより、パキスタンにおいて死者73,338人、怪我69,412人、家屋喪失者約280万人（推定）の被害が出た（被害数字は2006年1月20日パキスタン政府情報：JVCホームページより）。

（2）　事業の目標と活動

人的援助として、パキスタンに国際緊急援助隊（救助チーム、医療チーム及び自衛隊部隊）を派遣し、救助活動に当たるとともに必要な緊急物資供与ならびに被災者や緊急支援物資の搬送を行う。

2.　日本側関連活動・協力（JICA関連）

（1）　救助チーム

49名派遣。北西辺境州バタグラム県（以下「バタグラム」）で、捜索・救助活動を実施。

（2）　医療チーム

42名派遣（1次隊21名、2次隊21名）。バタグラム郡で医療活動を実施。延べ2,242人の患者を診療（患者数出所：緊急援助隊事務局）。

（3）　緊急援助物資供与

2,500万円相当（毛布、ポリタンク、スリーピングマット、テント、浄水器、発電機、コードリール、プラスチックシート、簡易水槽）

（4）　ニーズアセスメント調査団

復旧・復興支援に向けたニーズの把握及び枠組み策定のための調査団を派遣。他ドナー（世銀、ADBなど）との共同ニーズ調査にも参加した。

（5）　自衛隊部隊

自衛隊ヘリコプター計6機によるイスラマバード・バタグラム間の被災者・緊急支援物資の搬送活動を実施。

3.　事業におけるジェンダー配慮の実施

●　多様な文化・社会に配慮した援助実施体制の整備

（1）　男女比率に留意した緊急援助隊チーム構成の編成

バタグラム人口の99%はムスリムで、イスラム圏の中でも戒律に厳しい地域で、女性は、ヒジャブまたはブルカを着用し、また、親族の男性の随伴があって初めて外出が可能となる。このように女性の着衣・行動・移動に強い制約がある社会において、女性被災者が、緊急医療サービスにアクセスできるようにするため、緊急援助隊のチーム編成（医師、看護師、薬剤師、医療調整員、外務省・JICA職員）においても、男女比を意識し配置した（野営と治安上の問題から、通常は男性の比率がかなり高くなるが、今回は男女比率：3対2であった）。また、女性の負傷者が安心してサービスを受けられるように、医療チーム2次隊に、女性医師（1次隊は全員が男性医師）を確保・配置した。

（2）　男女別診療待合室の設置（診療環境の整備）

緊急援助隊の通常の診療オペレーションでは待合室は男女共用としている。しかしながら、バタグラムのような慣習をもつ社会では、女性患者が、受診しにくくなる可能性が高いため、診療所の受付と中待合室を男女別に区切る、という工夫をした。

●　被災国の性別役割分担に注目したアプローチの選定と効果

（3）　女性患者への働きかけを通じた乳幼児・児童患者の受診増加

バタグラムでは、女性患者が、乳幼児・児童の受診に付き添う場合が多かった。よって、女性患者が、診療を受けやすければ受けやすいほど、乳幼児・児童の受診機会も増加し、より多くの被災者の救済につながるので、女性患者の訪問し易い環境作り（診療待合室の男女別区分や女性医師の配置など）に努めた。緊急援助隊による医療サービスにおいて、乳幼児・児童患者の受診率平均は通常10～15%であるが、バタグラムでは、受診率は21%強と高い結果となった。

●　裨益効果・受益における公平性の確保

（4）　同性間の状況の違いにも着目した対応（「ジェンダー」+「家族構成」）

バタグラムでは、診療所の外の診療待ちの列に、並べない女性たちもいた。男性家族が生存している場合、診療を必要とする女性に代わり、男性家族が列に並び、順番を確保している。他方、震災で男性家族を失った女性家族は、男性たちの混じるこうした列に並ぶことができず、列から外れた場所にたたずみ、順番を待つということもみられた。被災者の誰もが、公平に受診機会を得られるよう、「女性」という同じ性別の社会グループの中においてもある脆弱性の違い（女性家族の置かれた状況）にも着目し、その障害を取り除くような方策を採った。具体的には、医療チームのメンバー、特に女性看護師が、診療テント周辺の状況に常時留意し、具合の悪そうな女性を見つけた場合に、個別に声をかけ受診を促すようにした。こ

のような活動が自然に行われた背景には、平常時に実施しているJDR 登録者向け研修において、ジェンダーに配慮した活動の重要性を啓発していたことがあった。

● 投入と効果、方策をジェンダーの視点から確認

（5） 男女別受診率とバタグラム緊急援助における意味

バタグラムでの診療患者数は延べ 2,242 名であった。男女別受診率は、男性 54%、女性 46%であった。女性を取り巻く社会環境の厳しい同地域で、これだけ多くの女性が受診できたのは、ジェンダーの視点、さらに複合的な属性（「ジェンダー」＋「家族構成」）にも着目した、きめの細かい対応の成果であると考えられる。

（6） 女性医師と小児科医の参加の促進

医療チームの登録者は、専門分野により異なり、総数では、女性の方が多いが、医師に限れば、男女数は、男性 179 名に対し、女性は 32 名と、女性医師の登録者の数は少ない。開発途上国（緊急援助想定国）の 3 分の 1 がイスラム圏であること、また、より性差（生物学的性差及び社会的性差）に配慮した医療（診療）サービスの提供という観点から、今後、女性医師の登録を増やしていく必要性がある。さらに、通常は乳幼児・児童患者の割合は 10～15%であるが、本件のように、女性患者の受診増加による乳幼児・児童患者の増加も想定されるので、性差以外の属性（本件では乳幼児・児童）にも配慮し、男女を問わず、小児科医の登録を増やす必要がある。